



木田市長の

ど〜んと

真珠のように輝く
まちづくりのために

コミュニケーション

vol.86

山歩きの楽しみ

若い頃は、ほんとうによく走ったものでした。短距離よりもどちらかと言うと中距離、長距離が得意で、駅伝大会などを心待ちにしていたことを思い出します。しかし、残念ながら30才くらいの時、腰を痛めてから徐々に走れなくなってしまうました。

そこで、最近ではもっぱら山の中や森の中を歩くことを楽しんでいきます。

木々の繁ったところは、何となく酸素が多いような、身体に良いような、そんな感じを受けます。そして心も身体も健康になるような気がします。

休日などに空いた時間を見つけて、ちよつと出かけるわけですが、どこへ出かけても、わたしのことを知っている人

と出会ってしまいます。考えてみれば、公務によりさまざまな場所に出向いたり、メディアなどに露出したりしているわけですから、当たり前と言えば当たり前のことではあります。

ただ、わたしのことを知っている人が誰もいない所のほうが、なぜか落ち着いた気持ちになることも事実です。

以前、伊勢の矢持やもちという所に出かけたことがありまして。平家の落人が住んだ里として有名で、山の中にあり、わたしも生まれてこの方一度も行つたことがない土地でした。

ここまで来れば知った人はいないだろうと思いつながら山道を歩いていました。途中、炭焼きをしている人がいたの

で、道を尋ねようと近づいていつて声をかけてみました。ところがわたしの顔を見るなり、「どこかで見たような人やなあ。もしかしたら鳥羽の・・・」と。

思わず絶句してしまい、新聞やテレビの威力を見せつけられた思いでした。

最近では、山歩きやウォーキングをする人が多くなりまして。昔は、用もないのに山を歩いている人などあまり見かけなかったように思います。

身体を健康に保つためには、運動をして筋肉をきたえると共に、余つたエネルギーを消費してしまうことが大切であると考え、人が多くなつてきたのでしよう。

山歩きはこれらの効能があるうえ、更にわたしにとって、は弁当のおいしさをこの上ないものとしてくれるメリットもあります。

おにぎり、卵焼き、そしてたくあんという簡素な弁当であつても、どこのレストランにも負けない昼食にしてくれます。お金もあまりかからず、健康によく、そして弁当がおいしい山歩きはすばらしいと思います。

あれから・・・

2011年3月11日、東日本を襲つた大地震から2年の月日が経とうとしています。被災地へは、鳥羽市からも多くのかたがたがボランティアや復旧活動に向かいました。復興に向け、国内をはじめ、世界中の人々から支援や、温かいメッセージが送られ、人を思いやる気持ちや「絆」を強く感じたことは記憶に新しいことと思います。

被災されたかたがたは、家族や友人、住居や財産、思い出の品までも・・・、この震災によつて一体どれだけの大切なものを失われたのでしょうか。そんな中、今なお、仮設住宅ではたくさんのかたが

たが過ごされています。また、この震災により引き起こされた福島原発事故では、故郷からの避難を余儀なくされているかたも多く、就職や家族、故郷への思いなど、計り知れない不安を抱えたまま、いわれのない人権侵害を受けているとの報道も見受けられます。

被災地から遠く離れた鳥羽市。あの日の出来事は、どんな日常に埋もれつつありますが、わたしたちは決して、あの日起こつた出来事を風化させることなく、後世に伝えていかなければならないと思います。

現在も被災地では、復興に向けた取り組みが進められています。道のはまだまだ遠く、今後も継続的な支援が必要で

あれから2年。今改めて、わたしたちができること、正しい認識と行動について考えてみませんか？

人権文化の花を咲かせよう

vol.124

